



桜美林大学大学院 2026年度Ⅱ期入試
心理学実践研究学位プログラム 臨床心理分野
筆記専門試験 問題用紙

受験番号	氏名

- * これは問題用紙です。答えは解答用紙に記入してください。
- * 用紙が配布されても合図があるまで開かないでください。
- * 試験中、監督の許可なしに、部屋の外に出ることはできません。
- * 不正行為に対しては厳正に対処します。
- * 試験終了後、問題用紙も回収しますが、メモなどは消さなくてもかまいません。

I. 以下の文章を読み、カッコ内に適切な言葉や人名を入れなさい。

1. 専門職として遵守すべき複数の根拠（正否の基準や価値観）が対立し、いずれも重要であるために明確な正解を導けない状況である（a. ）は、心理職においても避けがたく、どのように判断すべきかを考え続けることが大切である。
2. 人生の最終段階における医療やケアについて、本人が意思決定能力があるうちに家族や専門家と話し合いを重ねて、本人の意思を尊重した選択となるよう支援するプロセスを（b. ）、略して ACP という。
3. （c. ）性ストレスとは、命の危険があるような体験をした人の話を繰り返し聴いたり、支援したりするうちに、支援者自身が感じる強い心理的ストレスであり、睡眠障害、無気力、無力感、心身症状、不安感などの反応が現れることがある。
4. （d. ）とは、心理療法の効果研究などでよく用いられる研究手法であり、同一テーマの複数の独立した研究を統計的手法を用いて統合し、総合的な効果量や傾向を検証することで、エビデンスに基づく実践上の判断を支えるものである。
5. Minuchin, S. に代表される構造学派では、家族内の非機能的な「境界」「権力」「（e. ）」に焦点を当てて、家族構造の再構成を目指す。
6. 愛着や依存の対象を失うことによって生じる心理的過程について、Freud, S. は、（f. ）という概念を提唱した。
7. ソーシャルスキルトレーニング（SST）は、社会的学習理論を背景に持つが、実施では、インストラクション（教示）→（g. ）→リハーサル→フィードバック→定着化の手順で行われる。
8. 令和6年児童福祉法改正では、包括的な支援体制の強化・拡充を目的として、各市町村は（h. ）の設置や身近な子育て支援の場における相談機関などの施設の整備に努めることが明記されている。
9. 「外出すると疲れるので家にいることが多い」と言っているうつ病の患者に対して実施されることのある、本人の価値や楽しさを感じる活動を徐々に増やし、回避の循環を断ち切る方針に基づいたアプローチを（i. ）という。

10. ある発達障害児支援プログラムを実施した結果、行動面で改善が見られた。しかし、保護者は「この支援は現実的でない」と評価し、教師も「日常の指導に応用しにくい」と感じた。このように、介入の意義や成果が社会の文脈で適切に評価されているかどうかを問う概念を（j. ）という。
11. うつ病患者を対象に、治療法（方法 A／方法 B）×性別（男性／女性）の 2 要因分散分析を行ったところ、交互作用が有意であった。治療法の効果が男女で異なるかどうかをさらに詳しく調べたいときに適切な統計的分析手法は（k. ）である。
12. 児童生徒の不登校対策として、文部科学省が推進している、全ての子どもが安心して学べる環境づくりや、心の SOS の見逃し防止を図るための包括的プランを（l. ）という。
13. 学習障害のひとつのタイプとされ、全体的な発達には遅れはないのに、特に、文字の読み書きに限定した困難があり、そのことによって学業不振が現れたり、二次的な学校不適応などが生じる疾患のことを（m. ）という。
14. Damasio, A. R. によって提唱された、感情に伴って生じる身体の反応が脳に伝えられ、意思決定に影響するという仮説のことを（n. ）仮説という。
15. Lazarus, R. S. らによって提唱されたトランスアクショナルモデルでは、ストレス反応は、ストレスラーに対する（o. ）とコーピングによって決定されと考えられている。
16. Brink, R. によれば、40 歳以上の成人が過去の自伝的記憶を想起する際に 10 歳代から 30 歳代までの出来事を思い出しやすい傾向にあるという現象を（p. ）という。
17. 心理面接の際、クライアントの潜在的なリスクを特定・分析し、その対処を検討することを（q. ）という。
18. その動作の意味や手順を理解しているものの命令された動作を実行できない場合、（r. ）といい、左半球の頭頂葉損傷患者に出現する。
19. 精神障害者が自分らしく望む生き方を実現していくプロセスを（s. ）という。
20. 認知症の人を、1 人の人間として尊重し、その本人の立場に立つて行うケアを（t. ）という。

Ⅱ．以下の設問について指定の字数で回答しなさい。

1. 心理相談機関へ、中学生2年生のクライアントが親と同伴で、「発達特性を持つことで、登校渋りがある」という主訴で来談した。発達特性については、医療機関で診断を受け、心理検査の結果も持参している。心理専門家として、本事例の心理支援の導入にあたって、どのように対応するかについて、300文字以内で述べよ。
2. 病院において、心理職が医師から心理検査を含むアセスメントを依頼された場合、その結果を多職種チームに報告する際の留意点は複数考えられる。それらの留意点を300字以内で述べよ。
3. あなたは心理相談機関の心理職である。21歳の大学生が初回面接で次のように語った。
「1年前、大学で教授に自傷のことを相談したら、私の知らないうちに親に全部話されてしまって。両親とも激怒して私を責めたあげく、最後は『勝手にしろ』と突き放されて、最悪で……今もほとんど話ができず、辛くて…。ここなら絶対に秘密を守るって約束してくれますよね？」これに対して専門家として留意すべき点を踏まえ、この場でどのように応答するか。300字以内で具体的なセリフを作成せよ。
4. あなたは少年鑑別所の心理技官である。ある少年の家庭裁判所の審判に必要な書類（鑑別結果通知書）を作成しようと思い少年と面接を行うが、ほとんど話をしてくれない。この場合必要な点について300字以内で述べよ。

Ⅲ. 以下は『小中学生における攻撃行動に対する随伴性知覚の促進の手続きを加えた問題解決訓練の効果の検討』（尾棹万純・野中俊介・田中佑樹・嶋田洋徳（2025）認知行動療法研究, 第 51 巻 第 1 号, pp.33-44）に基づいて作成した資料である。本研究の目的と仮説と照らして、どのような結果が得られたといえるか。分析結果に基づき 400～600 字で記述しなさい。

※問題本文は著作権上、web ページに掲載することができません。

出典を参考にしてください。

出典

『小中学生における攻撃行動に対する随伴性知覚の促進の手続きを加えた問題解決訓練の効果の検討』（尾棹万純・野中俊介・田中佑樹・嶋田洋徳（2025）認知行動療法研究, 第 51 巻 第 1 号, pp.33-44）

※問題本文は著作権上、web ページに掲載することができません。

出典を参考にしてください。

出典

『小中学生における攻撃行動に対する随伴性知覚の促進の手続きを加えた問題解決訓練の効果の検討』
(尾棹万純・野中俊介・田中佑樹・嶋田洋徳 (2025) 認知行動療法研究, 第 51 巻 第 1 号, pp.33-44)

※問題本文は著作権上、web ページに掲載することができません。
出典を参考にしてください。

出典

『小中学生における攻撃行動に対する随伴性知覚の促進の手続きを加えた問題解決訓練の効果の検討』
(尾棹万純・野中俊介・田中佑樹・嶋田洋徳 (2025) 認知行動療法研究, 第 51 巻 第 1 号, pp.33-44)

※問題本文は著作権上、web ページに掲載することができません。
出典を参考にしてください。

出典

『小中学生における攻撃行動に対する随伴性知覚の促進の手続きを加えた問題解決訓練の効果の検討』
(尾棹万純・野中俊介・田中佑樹・嶋田洋徳 (2025) 認知行動療法研究, 第 51 巻 第 1 号, pp.33-44)

※問題本文は著作権上、web ページに掲載することができません。
出典を参考にしてください。

出典

『小中学生における攻撃行動に対する随伴性知覚の促進の手続きを加えた問題解決訓練の効果の検討』
(尾棹万純・野中俊介・田中佑樹・嶋田洋徳 (2025) 認知行動療法研究, 第 51 巻 第 1 号, pp.33-44)

MEMO ご自由にお使いください。
